



命乞いでやたら色仕かけ  
してくる巨乳ザコスパイを

わからせ中出しする話。



エロバトルン文庫



## 登場ヒロイン



### モモカ

捕虜になった巨乳女スパイ。  
すぐに命乞いをする  
プライドのないザコスパイ  
だが、エロテクは最高。

### ソウカ

病弱なはずのモモカの妹。  
スパイとしてまた夜の相手  
としてもルカ大尉に  
仕えている。



### ルカ大尉

敵国ケイオンの軍人。  
ソウカの上司、主人公を  
自国に引き込もうと  
狙っている。

1. ちんぽで成敗！命乞いでパイズリを強要してくる巨乳ザコスパイに、わからせ中出し。

「なんで！？毒だってバレたの？ひいいい！許してください！！い、命だけは！！そ、そうです……おっぱい！あたしのおっぱいでおちんぽズリズリしてあげますから！」

頼んだわけでもないのにぶるるん♥とスタイル抜群のボディから、巨乳をさらけ出す桃色の髪の女。

そして女は、俺のちんぽを許可もなく勝手におっぱいでシゴき始めるのだ。

こいつは敵国の女スパイのモモカ。部隊の任務中、俺が捕まえた捕虜だ。

最初は情報目的で生かしておいたモモカだったが。

俺がこの部隊の隊長で、自国の英雄とまで呼ばれていると知るや、急に色目を使い始めてきた。

「えへ♥えへへ♥いいですか？隊長さん♥気持ちいいですか？えへへ♥♥♥おっぱい♥あたしのおっぱいどうですか？えへ♥」

頭の中は痴女そのものだが、顔だけは可愛いので愛想笑いでもソソる。

しかし、それをいいことに毎回調子に乗る、逆に俺のちんぽをイラつかせているのだ。

シュリシュリシュリ♥♥♥シュプ♥♥♥にゆぶ♥♥♥

形の良い巨乳がなれた手付きで上下に揺れる。こいつの命乞いパイズリも何回目だろうか。

だが、毎回俺のちんぽの攻め方が違い、あっという間に勃起してしまう。

この女にスパイの才能はまるで無いが、エッチの才能はある。むしろ娼婦としてやっていくほうがいだろうに……

今日も、俺のお茶に毒を混ぜてきやがった。

あきらかに色が紫で、ツーンとくる悪臭を放つお茶を平然と俺の前に置き、爆乳をフルフル揺らしながら様子をうかがっていた。

「ど、どどどどうぞ！ えへへ♥毒なんて入ってませんから♥一気に飲んでください隊長さん♥」

と、こいつわざとやっているんじゃないだろうな……

不安になるほど下手くそな演技、おどおどした態度、そして愛らしい顔と極上のボディが今日も俺のちんぽをイライラさせる。

「なんでバレないと思った？ ほらっ！ お前が飲んでみろよ！ ほら！」

「ひいい！ 無理ですう！ お願いします！ 見逃してください！ あたしには国で帰りを待っている病弱な妹がいるんです！ ほら♥パイズリ♥♥♥パイズリの続きをしましょう♥ひいい！ ？ やめてええ」

コップをほおにグイッと押し付けると、ガクガク震えだした。

「フンっまあ、いい。なら今日も誠意をみせてご奉仕しろよ」

「は、はい！ 喜んで♥♥♥えへへ♥たすかった♥」

俺がコップの中身をポイと捨てると、地面がじゅっと煙を立てて溶けた。

「なんてもので飲ませようとしてんだよ！！ おらああ！！！」





「ひiiiiiiiiiiiiiiiiiii！！ちんぽお♥♥♥ちんぽでおっぱい♥えぐられるう♥♥♥殺されるう♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

桃色の乳首がいやらしく立つ胸の谷間を勢いよく突き上げて、そのままやかましく吠えるモモカの唇に亀頭をねじこむ。

「ふぶうう！？んふううう♥♥♥んんううう♥♥♥♥♥♥うぐ♥♥♥♥♥♥ふぐぐぐうう♥♥♥ふひゃああ♥♥♥ほひょおおお♥♥♥」

「何言ってるかわかんないんだよ！くそ！やることはぶっ飛んでるくせに、フェラはうまい……うぐ！」

「んふうう♥♥♥♥♥♥ちゅぼぼ♥♥♥♥♥♥ちゅぷうう♥♥♥♥♥♥じゅぼじゅぼ♥♥♥♥♥♥チュプううっ♥♥♥♥♥♥んっん♥♥♥んううう♥♥♥♥♥♥」

デカイ乳をシゴキながら器用に亀頭をねぶっていくモモカ。乳の動きと舌の動きが微妙にずれて、予測不能な快感がペニスをさらに怒張させる。

名前と同じ桃色の髪が乳首と一緒にいやらしく揺れ、全身でおれのちんぽをシゴキあげている。

ずりゅずりゅと音を出し、いつのまにか垂れ落ちる唾液がローションの代わりにパイズリの速度をあげさせている。

ずりゅりゅりゅ♥♥♥♥♥♥じゅりゅ♥♥♥にゅぷん♥♥♥♥♥♥ずりゅずりゅりゅううっ♥♥♥♥♥♥

「んふ♥♥♥んんんう♥♥♥♥♥♥んん♥♥♥んほっ♥♥♥♥♥♥んふうう♥♥♥♥♥♥」

愛らしい八重歯がときおりちんぽに当たる。微かな痛みが顔をゆがませたが、それすら計算ずくだと言わんばかりのドヤ顔で俺を見上げてくる。

「ムカつく！」

モモカにイイようにシゴかれているだけではない。突き上げるちんぽの速度をあげて、モモカの口を犯す。

「ふぶうう♥♥♥♥♥♥んんほおお♥♥♥♥♥♥んぶうっ♥♥♥♥♥♥」

苦しみだすモモカの瞳に涙が溢れてくる。

ざまあ見ろ！

いつも俺の命を狙ってきやがって！

誰のお陰で隊員たちに殺されずに済んでいると思っているんだ！

「ふううん♥♥♥♥♥おほおおお♥♥♥♥♥んぶうちゅぼちゅぼ♥♥♥んほおお  
おお♥♥♥♥♥」

にゅぷ♥♥♥♥♥にゅぷうう♥♥♥じゅぶ♥♥♥♥♥しゅこしゅこ♥♥♥♥♥

相変わらずデカイ乳擦り付けやがって、ちんぽをシゴくのをやめやしない。

ちゅう♥♥♥ちゅぷう♥♥♥♥♥にゅぷんにゅぷん♥♥♥♥♥にゅるうう♥♥♥

ちょっと脅せばすぐ降参する、プライドの無いザコスパイのくせに！

にゅちゃ♥♥♥♥♥ぬちゅ♥♥♥♥♥にゅぷ♥じゅぼお♥♥♥♥♥じゅぶじゅぶ♥♥♥  
にゅぷるん♥♥♥♥♥

ちんぽに対する執念だけは.....ううっ.....すげえ♥♥♥

じゅぶうう♥♥♥♥♥にゅぷにゅぷううう♥♥♥♥♥ぷくふう♥♥♥にゅぼじゅぼお  
お♥♥♥♥♥にゅぷにゅぷんツ♥♥♥♥♥

「んふう♥♥♥♥♥んぼんぼ♥♥♥♥♥あふ♥♥♥ちゅぶ♥♥♥♥♥んぼお♥♥♥♥♥  
んちゅう♥♥♥♥♥にゅちゅ♥♥♥♥♥んふうん♥♥♥」

「くそ！いやらしい乳でちんぽシゴキやがって！出すぞ！ロマンコに射精する！ほら反省ザーメン全部飲めよ！ううイク！！！」

にゅちゃ♥♥♥♥♥にゅぷる♥♥♥♥♥じゅっぼ♥♥♥にゅぷうう♥♥♥♥♥

どびゅるるるるうう♥♥♥♥♥びゅううう♥♥♥♥♥びゅびゅうツツ  
♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「んぎゅうう！？ング♥♥♥♥♥んぐう♥♥♥♥♥んぎゅ♥♥♥んごく♥♥♥ごきゅツ  
♥♥♥♥♥ごきゅ♥♥♥♥♥んぐふ♥♥♥♥♥」



飲みやがった。まじで全部。おれの朝立ち特濃精子を……あんなにうまそうに……

「はあはあんぐ♥♥♥♥♥おえ♥♥♥んはああ♥♥♥♥♥はあはあ♥♥♥お、おししかったれすう♥♥♥えへへ♥♥♥隊長さんの精子もう出ないんですか？」

顔にかかった精子を拭いもせず、くぱあと精液で糸を引く唇。

八重歯の奥にある舌の上には、白い精子がまだぷるぷると揺れている。

あどけない顔は無邪気そのものだが、瞳の奥はトロンと淫乱なハートの形で俺を見つめているのだ。

「えへへへ♥モモカのおっぱい気持ちよかったですよ？殺すなんてもったいないですよ？ねっねっ？えへへへ♥♥」

こいつは……

「ま、まあ。お前の身体だけは利用価値があるからな……生かしておいてやる……」

「ほ、ほんとですか？うれしいです隊長さん♥♥♥大好き♥」

顔をほころばせる巨乳女スパイ。こいつなら放っておいても無害だろう……それに、何度も抱いた女を殺すのは忍びないし……

少し照れた俺が目をそらした瞬間に。

「油断したな！バカな男め！死ね！」

隠していたナイフを俺の顔めがけて突き出してきやがった。

ぐぎっ！

「いったあああああい！！！」

さっきからチラチラ背中に隠していたナイフが見えていたのだが、やっぱり狙ってきやがったか。

落としたナイフを拾い上げ、首元に突きつける。

「ひiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii! ? やだあ! ナイフ怖いですう!!! 許して! 二度と逆らいません! えへ♥えへへへ♥こ、こんどはおマンコ使いますか? えへへへ♥」

「懲りないなお前。お仕置き、続行だ! フンっ!!!」

ナイフを放り投げて、俺は別のモノをモモカに突き刺す。

「あひiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii! ? あたしが! あたしが刺されたああ♥♥♥隊長さんのおちんぽに刺されちゃたああああ♥♥♥♥♥♥」

パンパンパンっパンパアアアアアンツ!!!

モモカのおマンコはすでに濡れていた。すんなり俺を受け入れた膣が俺のおちんぽに貫かれまくり女スパイは悲鳴を上げるのだ。

「あひ♥♥♥すごお♥♥♥おほおお♥♥♥隊長さんのおちんぽすごいいiiiiiiiiii♥♥♥♥♥あひいい♥もっともっと♥突いてください♥♥♥悪いモモカのおマンコお仕置きしてええええ♥♥♥♥♥」

「言われるまでもねえよ……」

パンパンパアアアアアンツパンパンツ!!!

「あひゃああああああああああ♥♥♥♥♥♥♥しゅごおほおお♥♥♥」

「どうだ? 反省したか? ん? まだ足りないか? この淫乱スパイめ!!!」



「ご、ごめんなさいいいい！！あああん♥♥♥♥ひぎいい♥♥♥ちんぽしゅご  
いいいい♥♥♥ゆるじてええ♥♥あたしの帰りを待ってるうう♥♥♥寝たきりのおね  
えちゃんがああ♥♥♥あひゃあ♥♥♥ちんぽおお♥♥♥ちんぽおえぐられりゅう  
♥♥♥♥♥おほおおおお♥♥♥♥♥」

病弱な妹が待ってるんじゃないのかよ.....

「くそ！お前膣のナカまで淫乱だよな！うっ締りがすげえ♥とりあえず孕ませるぞ！おらっ！精子受け止めろ！！！」

びゅうううう♥♥どびゅううううう♥♥♥びゅびゅ♥♥♥

「おほおおおお！？中出しされちゃったああああ♥♥♥♥いくいく♥♥あたしもイっちゃうううう♥♥♥♥おほおおおお♥♥♥隊長さんのおちんぽつよすぎいいいいいい♥♥♥♥」

ビュクンビュクン♥♥♥♥

巨乳をぶるんぶるん揺らして痙攣していた、モモカがぼったりと倒れ床に白いシミをつけていく。

俺は銃に手をかけ、ゆっくりと狙いを定める。

いくらこいつがポンコツでもこう何度も、命を狙われればいつか致命的なことになりかねん.....

「あひいい♥隊長さん♥♥♥見逃してええ♥♥もっともっとおちんぽ気持ちよくなるからあ♥♥♥あひっえへ♥♥えへへちんぽだいしゅき♥♥♥」

ダメだ.....こいつは敵の女スパイだぞ！嘘しかつかないし、平気で裏切るし、俺のちんぽにしか興味がないクズ女だ！

だが.....

クソ！クソ！エロい身体しやがって！情けないアへ顔しやがって！

「あひ♥♥ちんぽおお♥♥♥また来たああ♥♥♥おほおおおお♥♥♥ちんぽちんぽ♥♥隊長さんのおちんぽおお♥♥えへ♥えへへへ♥隊長さん♥ヒーロー失格だよね♥♥敵の女の身体に夢中なんだもんね♥♥♥えへへ♥もっとちんぽちょうだい♥♥♥」

ああ♥たまらねえよモモカ♥女ザコスパイのエロい身体は最高だ！

ああ.....俺は英雄(ヒーロー)失格だ.....

精液があふれ出ているマンコに再び狙いを定める。

「あ♥ああああ♥きちゃう♥♥♥英雄ちんぽきちゃう♥♥♥♥悪い女スパイのおマンコやっつけられちゃう♥♥♥♥」

身体をブリッジさせて、ちんぽを迎えようとするモモカ。

「ああ、敵の女に種付け中出し決めてやるよ。覚悟しろ！女スパイめ！」

本来交わる事のない敵国の女軍人とのセックスに、背徳感を味わいながらちんぽを刺しいれる。

くふ♥くふふふふううう♥♥♥くぼ♥♥♥

「あひいい♥♥♥ち、ちんぽ♥おちんぽ刺されちゃった♥♥♥♥ひゃううう♥♥♥すごい♥♥♥太い♥♥♥あ♥あああ♥♥これが♥隊長さんの本気ちんぽお♥♥♥」

身体をさらに曲げて、のけぞる女。

「ああああん♥♥♥すご♥ちんぽ硬い♥♥♥あひいいいい♥♥♥だめええ♥♥♥」

ゆっくりとちんぽを突き入れる。

ずふうう♥♥♥ずふふふふうううう♥♥♥♥

「ひぎいいいいいい♥♥♥♥ちんぽが♥あ♥ああああ♥♥膣を貫いて♥♥♥ああああ♥♥♥♥」

空気の抜けた膣の抵抗感、挿入を拒絶されている感覚。それを無理やりこじ開ける快感。

ぐふふふうううう♥♥♥♥ぐぽおおお♥♥♥♥

「だめだめえええええ♥♥♥子宮にいいいい♥♥♥♥おちんぽカリ首突き刺さっ  
ちゃうう♥♥♥♥あひ！あひゃああああ♥♥♥♥ゆるしてえええ♥♥♥」

くつん♥♥

最後に行き当たった膣の奥。ここを抜ければモモカは絶頂でイキ狂うだろう。

「さあ、覚悟しろよ女スパイ」

「ひっ！ま、まって！」

俺はそのまま腰を押しあげた。

2. 命乞いフェラを隊員たちに隠しながら、のどマンコにマーキング。からの  
エロ爆乳にちんぽ拷問。

モモカは俺たちの部隊が隠密行動中に捕まえた敵国の女スパイだ。



森の中で野営をしているときに、食糧庫を漁っていたところを隊長である俺が発見したのだが……

「そこで何をしている！？お前はどこから！」

声をかけた瞬間、ビグンツと大きく身体を震わせて、ラバースーツに包まれた巨乳を揺らしやがった。

でかい……これまで出会ってきた女の中でもダントツにデカイ乳を持った、桃色の髪の愛らしい美少女がそこにいた。

「なんで女がここに？君はいったい？」

相手が女性であったこともあり、少し穏やかに声をかけてみる。

「ふぐん……ふぐもぐむぐ！えへへ♥」

食ってやがる。見つかったにもかかわらず、俺たちの大事な食料を！しかも着ているラバースーツの右肩にある紋章は侵略してきた敵国ケイオンのものだった。

「お前！ケイオンの軍人か！だったら女といえど容赦せんぞ！」

「ひひいいい！助けて！お腹がすいてたんですう！この部隊をスパイしていたけどこんなに長く森の中にいるなんて思わなくて！見逃してください！」

「やっぱり敵のスパイかよ！食料まで食い散らかされて、許すわけないだろ！」

「ひひひひひ！やだやだ！殺さないでええ！おっぱい！おっぱい触らせてあげますからあ！」

俺が銃を抜くと、とびあがる女スパイ。デカイ巨乳がぶるるんと揺れた。

まじでデカイ……

その動きに一瞬目を奪われているすきに逃げ出す女。

「今です！ ははは！ おっばい大好きな兵隊さんで助かりました！ やーい童貞！」

「ぶっ殺す！」

「きゃああ！ こないで！ 襲われる！ ヘンタイに犯されるうう！！」

「お、お前！ なんてこと叫ぶんだよ！ 待てこら！」

野営地を一周しながら、女スパイが「犯される」「ヘンタイ」など叫ぶものだから部隊のみんながぞろぞろと現れる。

「隊長！ どうしたんですか！？」「犯されるって、いったい何が！」

部隊のほとんどの隊員が集まった頃、ようやく俺は女スパイを断崖へと追い詰めた。

「さあ、観念しろ。もう逃げ場はないぞ。」

女スパイに銃を突きつける俺の少し後ろにはたくさんの隊員たち。

「隊長、その女はいったい！？」「犯されるとか騒いでいたけどデマですよね？」「おれは隊長のこと信じてます！ 隊長はこの国の英雄なんですから！」

ふふ、頼もしい隊員たちだ。やはりこんな女スパイのことを真に受けるような奴はいないようだな。

「さあ、観念しろ。お前の目的を吐いてもらおうぞ」

「兵隊さんはこの部隊の隊長さんだったんですか？」

女スパイは追い詰められたにもかかわらず、目をキラキラ輝かせて俺の顔を見つめている。

「ああ、まあな！国を救った功績を認められて、この部隊の隊長になったんだ」

「そうだ！隊長は俺たちの英雄だぜ！」「俺たちの英雄！」「隊長かっこいい！」

うむ、とてつもなく信頼されすぎているのもちょっと怖いかな。

「へー♥そうなんだあ英雄(ヒーロー)なんだねえ♥ねえ隊長さん♥これなんだかわかる？爆弾だよ？爆弾」

女スパイが手に持ったモノをフリフリと揺らす。

「爆弾だと！？全員離れろ！」

俺の号令で隊員たちが一斉にそばを離れる。そのすきに女スパイは驚くべき行動をとった。

「えへへ♥♥隊長さん♥♥♥あたしを助けてよお♥♥ね♥気持ちいい事してあげるからさあ♥」

いうが早いか女スパイは俺の身体を隠れみのにして、下半身にしがみつき慣れた手つきでちんぽを露出させたのだ。

「お、おい！なにを！」

「騒いでいいのかなあ？英雄なんでしょ？敵の女にちんぽさわられてバッキバキにしちゃってるとこ見られていいの？」

「くっ……汚いぞ！」

「ふふん♥でもさあ♥隊長さんのおちんぽ触る前から勃起しちゃってたよ？あたしのおっぱい見ただけでこうなっちゃったでしょ？隊長さんてばカワイー♥英雄なのにおちんぽすぐ勃起しちゃう童貞さんなんでちゅね♥」

スリスリスリ♥

「うはあ……」

やわらかな手が俺のちんぽをやさしくしごく。

「やだあ♥カウパーもう溢れてる♥すっごく期待してるんでしょ？これからのコト♥」

「誰が！お前みたいな卑劣な女スパイなんかに！うあああ！」

ぱくう♥♥♥ちゅぽちゅぽちゅぽ♥♥♥ちゅぽん♥♥

厚い桃色のくちびるが俺の亀頭を包み込んだ。なんだこれ！これがフェラなのか！口でちんぽ食べられるのがこんなに気持ちいいなんて！

少しくわえただけなのに、舌がかり首のまわりを一周して、裏筋をシュリシュリしごきやがった。やべえ……これが女スパイのエロテクか！

「んふふふう♥♥隊長さんのおちんぽすごい臭いだよ♥♥オナニーもせずがんばったんだね♥えらいえらい♥……ね？あたしをこの部隊に置いてよお♥隊長さんのおちんぽのお世話を毎日してあげるからさあ♥」

「誰が！お前の色仕掛けなんかにのってたまるか！」

「ふうん♥強情なんだね♥ちんぽバッキバキにしてるくせに……」

ちゅぽ♥♥ちゅぶちゅぶ♥♥♥ちゅぽおお♥♥

俺の静止も聞かずにちんぽを再びしゃぶり始める女スパイ。

「おい！やめろ！やめろって言ってんだよ！くそ！」

何を言おうがやめやしない。さらにスピードを上げておれのちんぽにむしゃぶりつく。

桃色の編み込んだ髪を必死に上下させて、俺のちんぽをすすりあげていやがる。

「くっ……まじでうまい。これが、女の子のフェラチオか……」

こんなに可愛い女が俺のちんぽをしゃぶってくれるなんて……これを毎日、やってくれるというのか……

「ふふん♥んちゅうう♥♥♥ちゅぼちゅぼ♥♥ちゅぷう♥」

目つきだけであざ笑う女スパイの愛らしい顔が俺を、俺のちんぽをイラつかせる。

「くそ！こいつめ……」

「隊長！だいじょうぶですか！」「俺たちも加勢しますか！？」

隊員たちの声ではっと我に返る。

「だ、だいじょうぶだ！そこを動くなよ！俺が説得するから！」

思わず、隊員たちの助力を断ってしまった。

ニヤリと笑う女スパイ。ああ、俺もすぐにわかっていたんだ。  
爆弾を持っているというウソを。

女スパイの手に握られていたのは食糧庫にあった干し肉だったのだから。

ちゅぼちゅぼ♥♥♥ちゅぷぷうう♥♥♥♥



くそ！みんなが見ている前で美味しそうに俺のちんぽくわえやがって！

ちゅぶ♥♥ちゅぼちゅうう♥♥♥ちゅぼぼ♥♥♥



ああ、すげえ……すげえフェラテクだ。けっして部隊のみんなを裏切ったわけじゃない。一回だけ、一回だけこいつに抜いてもらいたい。

こいつのいやらしい唇で、艶めかしい舌使いで、いきりたったちんぽ。

隊員たちに隠れて俺は！なにを！くそ！それもこれもこいつのせいだ！

愛らしくて憎らしいこの女の顔に精液をぶっかけて汚してやりたい！

「えへへ♥♥ちゅぶちゅぶ♥♥♥ほらあ♥♥我慢しないでえ♥♥♥どぴゅどぴゅ♥♥♥  
していいんですよ？隊長さん♥♥♥んぐうう♥♥♥」

「うお！のどまでちんぽが届く！？」

口の中だけにとどまらず、おれのちんぽが女スパイの喉の奥まで吸い込まれていく。

この女どこまでエロいんだ。ああ！亀頭のさきだけじゃなくて、ちんぽの根元までしごかれて……感じる！うう！のどマンコかよ！あああ！  
やばい！イラマチオで童貞捨てちまいそうだ。

「ふぐうう！？ふぐふぐうう！？」

3. 部隊壊滅！巨乳ザコスパイの誘惑乱交パーティー、部下に寝取られるのぞき見オナニー。

パンツパンツパンツ♥♥♥

森に響き渡るのは、腰と腰がぶつかり合う淫らな音色。

「あひいいいい♥隊長さん許してくださいいい♥♥♥もうあたしのお腹パンパンですう♥♥♥精液便所いっぱいになっちゃいましたよおおお♥♥♥」

パンツ♥パンツ♥パンツ♥

「うるさい！まだ入るだろ！おらあ孕めよ！俺の精子ぜんぶ受け止める！！！」

どびゆるううう♥♥♥びゅびゅうう♥♥♥

「ふう♥スッキリしたぜ♥おい！これに懲りて俺たちの行軍位置を敵に知らせようとするなよ？一人でトイレに行きたいなんてバレバレなんだよ！」

「ひいい！なんでそれを！？えへえへ♥もう、もうしません！許してください♥へへへ♥これからは隊長さんといつも一緒に♥連れションしますから♥」

そう言いながら俺の腕におっぱいを挟んでくる女スパイ。

はあ……俺は捕虜としている、女スパイのモモカの命乞いに大きくため息をつく。

しかし……バレバレなスパイ活動でも、懲りずになんどもやられると疲れるものだ。

それでなくとも、敵国の国境付近だから部隊内もピリピリしているというのに……

その疲労のためか、俺はつい油断をしてしまった。

～深夜、野営地のテント～

「ん？あれ？寝ちまってたか……モモカ？寝起きでちんぽバキバキに勃起しちゃったぞ。しゃぶってくれよ」

……反応がない。

あれ？そういえばあいつに、手錠つけてたっけ？

……しまった！

俺は慌ててテントを飛び出す。モモカを逃がしてしまったか！？

捕虜を逃がしたとあっては、あいつを処刑をすべきだと言ってきた隊員たちに示しがつかない。

顔面を青くしながら周囲を見渡す。テントの周辺に彼女の姿は見えない

……しかし、彼女はすぐに見つかった。

「あああん♥♥♥すごいですう♥♥♥みなさんのちんぽ気持ちいい♥♥♥」

モモカの色っぽいあえぎ声が、部下たちのテントの中から聞こえてきたからだ。

「この声、たしかにモモカだが？おいおいまさか……」

……別の不安がよぎる俺は、声の聞こえたテントの中をそっとのぞきこむ。

そこでは、深夜の乱交パーティーが繰り広げられていた。

「すげえ！すげえよモモカちゃん♥うわ！フェラやばすぎ！おおおお♥吸いつきヤバイ♥♥」

「こっちも！こっちもしごいてよ！はやく！はやく！ううう手コキだけでもイッチまいそうだ！あ——♥♥」

「うおおお！搾り取られる！マンコすげえ……こんなエロいマンコ初めてだぜ♥ああ♥また射精しちゃう！搾り取られるう♥♥♥」

「えへへ♥♥んぐ♥♥ちゅぽん♥♥……隊員のみんなを今日もいっぱい♥  
いーっぱい♥気持ちよくしてあげますね♥♥♥あはん♥♥♥ちんぽすごい♥♥隊員  
さんたちのおちんぽしゅごおい♥♥♥えへ♥」

そこには部下たちとやりまくる巨乳スパイ、モモカの姿があった。

部下たちのちんぽをうまそうにしゃぶり、マンコと尻の穴にちんぽをハメ、手をスライドさせてシゴキあげながら、巨乳を揺らすモモカ。

隊員たちもモモカのエロボディに夢中で、競うようにちんぽをモモカの身体に押し付けあっている。



「えへへへ♥♥みなさんのお疲れおちんぽ♥あたしがあ♥スツキリさせてあげますね♥♥あーん♥♥♥ちゅぶちゅぼぼ♥♥♥」

「ううう♥♥フェラすげえ♥♥♥うまそうにオレのちんぽしゃぶりやがって♥♥ああああ♥モモカちゃんのお口の中あったかい♥出る！ちんぽミルクでる！」

「ああ！出る！マンコに出すよ！中出しするからね！モモカちゃん！ううう  
♥♥♥淫乱マンコに種付けする！孕め！ぼくの子供孕めええ！！！」

びゅるるる♥♥♥どぴゅぴゅうう♥♥♥

隊員たちが思い思いに腰を振り、モモカのムチムチエロボディが犯されていく。

白い精液が飛び交いモモカの身体をさらにいやらしく、染め上げていくのだ。

「最高だよモモカちゃん♥あ——す——あああ♥♥隊長ばっかりこんないい  
思いしてやがったのか！ああ♥♥ちんぽ気持ちいい♥♥♥」

「ほんとだぜ。やたらモモカちゃんかばうと思ったら、やっぱ身体が目当て  
だったんだな！おお！しまる！おら！もっとケツ穴しめろ！今日も、尻叩い  
てやるからな！おらああ！！！」

パアアンツ！

「ひっぎいいいい♥♥痛くしないでええ♥♥♥ちゃんとお尻の穴もお♥♥絞めます  
からあ♥♥♥ひぎいいいい♥♥♥たすけて……たすけて……」

隊員の平手がモモカの尻に打ち付けられていた。

くそ！このごろ尻がやたらはれていると思ったら、こいつらにもケツをふって  
やがってたのか！あのメスブタ！

パアアアンツ！！

「ひゃあああん♥あとがのこっちゃうよおお♥♥♥隊長さんに……隊長さんにバ  
レちゃうからやめてええ♥♥♥」

くそ！やめろ！モモカのケツもマンコも俺の専用なんだぞ！



4. 裏切りの巨乳ザコスパイを断罪種付け。狙われる英雄ち●ぽ、敵女軍人たちの百合セックス。

「誰にでも股を開くビッチが！俺の俺だけのザコスパイだと思っていたのに！」

「ひっ！ちがう！ちがうんです！あれは無理やり隊員さんたちに脅されて！」

俺はモモカの腰をつかみ、ちんぽを女の穴にねじ込む……

ぐりゅん♥♥♥

「ひぎいいん♥♥♥♥」

「ウソをつくのか！また！平気で俺を騙しやがって！あざ笑いながらパコってただろうが！くそ！ちんぽでかきだしてやる！お前を孕ませるのはおれの精液だけだ！」

ずぶぶぶぶぶぶうううう♥♥♥♥♥

「ひっ！？バレて……ひぐううううううう！！！！隊長さんのおちんぽきたあああ♥♥♥♥♥」

身体をエビのようにのけぞらせてモモカがうめく。

ずぶぶぶううう♥♥♥じゅぼじゅぼじゅぼおお♥♥♥

「ひゃああああん♥♥♥すごい♥ちんぽすごい♥♥♥やっぱり英雄ちんぽ最高♥♥♥ザコ兵士のちんぽとは違いますううう♥♥♥えへ♥えへへへ♥♥♥ちんぽおお♥♥♥隊長さんのちんぽでモモカをお仕置きしてください♥♥♥♥」

ずぶずぶううう♥♥♥ずぶ♥♥♥にゅぷう♥♥♥ぬっぷ♥♥♥

調子のいいこと言いやがって！

「ひゃああああん♥感じちゃう♥♥♥おほ♥ちんぽしゅご♥♥♥えへへ♥おちんぽだいしゅきいい♥♥♥♥」

「どうした？俺の包茎の租チンじゃあ満足しないんじゃないのか？おらっ！おらああ！！！」

パンツパンツツパアアアンツ

「ひいいいいい！ちがう！ちがいますうう！ああああ♥♥♥あたしのマンコが♥ああ♥ああ♥♥♥隊長さんの形になってるのおお♥♥♥隊長さんの包茎ちんぽがあたしのナカでめくれて暴れてるううう♥♥♥♥」

ぐりゅぐりゅ♥♥♥ぐぽぽ♥♥♥

「おら！おらあ！くそ！また絞めつけやがって！これだけハメてもまだガバガバにならねえのかよ！どんだけちんぽ好きなんだ！」

「あひいいいい♥♥♥えへ♥えへへへ♥♥♥ちんぽすきいい♥♥♥隊長さんのおちんぽがあ♥♥♥一番なのおお♥♥♥♥」

振り向きながらあへあへといやらしい愛想笑いを浮かべる女スパイ。

「若い隊員にも同じこと言っているんだろ！？ふざけやがって！ちんぽならなんでもいいんだろが！」

もう、騙されない！こいつはこいつだけは！ちんぽで制裁してやるのだ！

「ちがいますうう♥♥♥隊長さんのおちんぽが……隊長さんが……隊長さんだけが……好き、好きなの……うう……」

「くそ！またウソ言いやがって！くそ！また、また騙されちまう！」

パンツパンツパアアアンツ

「隊長さん♥♥♥隊長さん♥♥♥好き♥愛してる♥♥♥ほんとうです♥隊長さんいつもかばってくれて……ダメなあたしでも……そばに置いてくれて……好き……好きなの♥♥♥あ♥イク♥♥♥イク♥♥♥隊長さんのおちんぽでイックウウウ♥♥♥♥♥♥♥」

俺の身体をちんぽを散々犯して、裏切ってきたながら、まだ俺のことが好きだと愛らしい声でささやく女スパイ。



「モモカ！ふざけんな！だまされるかよ！もう.....そんなこと！モモカ！ちくしょう！モモカ♥俺も！俺も！ううう♥でる！中出しする！俺だけの女にしてやる！孕め！ぜったい裏切らないように孕ませマーキングしてやる！！イケ！一緒に.....ああああああああああああああああああああ  
♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

～すぐそばの森の中～

「すごい♥モモカおねえちゃんがあんなに気持ちよさそうに♥ああ♥おちんぼの  
ピストンやばすぎ♥ボクもちんぼ入れたいよお♥♥♥」

「なんてハレンチな！ケイオンの領土で敵の兵士が♥あんなに乱れて……ああ♥すごいおちんぽ♥大きすぎだ♥私も……ほしい♥♥」

隊長とモモカのセックスを覗き見るふたつの影。

それはケイオン軍の軍人、ルカ大尉と、同じスパイ活動をしているモモカの妹のソウカだった。

男性経験のないふたりは食い入るように二人のセックスを見つめている……

「すごい♥おねえちゃんが男の人に本気で感じさせられてる♥はあ♥はあ♥いやらしいんだからあ♥ああん♥♥ルカ様！？」

ルカの指がモモカに劣らぬ、ソウカの爆乳にくいこんだ。

「ソウカ、おまえの姉のせいでこんなになってしまったではないか♥妹のおまえが責任を取るのだ♥♥♥ほら♥お前も♥♥♥」

「はう♥♥♥ルカさまあ♥♥ボクも♥♥♥ああ♥♥ルカさまのおっぱいすごい大きい♥♥♥♥乳輪もでっかくてエッチですう♥♥♥」

お互いの軍服の間から乳をはみださせて、もみ合う女軍人たち。

ツンと上を向くルカの乳輪の大きな乳首を、たわわに実ったソウカのやわらかな乳首が上から押さえつける。



むにゅううう♥♥♥ふにゅううう♥♥♥♥♥

「ああああああん♥♥♥♥♥」



乳首がこすれあうだけでいやらしい悲鳴が上がる。

「ちんぽ♥ちんぽほしい♥♥♥ずっと女の子ばかりの兵団だったから♥おちんぽ  
見ただけで♥♥♥あああん♥発情しちゃおう♥♥♥」



上司であるルカの股間をまさぐり、ズボンをずりさげる女スパイ。

部下の無礼な行動を咎めもせず自身もソウカの下半身を露出させ、ぬれているマンコに指をつっこみかき回す女軍人。

露出したマンコ同士を恥ずかしげもなく寄せ合い、擦り合わせ、隠微な声で求愛しあう女たち。

「あああん♥ルカさま♥♥♥ボクボク♥♥♥ルカさまのおマンコ大好きです♥♥♥熱いよおお♥♥♥でも、でも足りないの♥♥♥お願いルカ様♥♥♥アレ♥♥♥使いましょう♥♥♥♥ね♥ね♥ね♥♥♥」

「おふう♥♥♥ああ♥♥♥ソウカ♥♥♥♥♥いいぞ！おおおう♥♥♥ふふ♥おまえもスキだな♥待ってろ♥♥♥今つっこんで.....やる！」

サンプル版 END

続きは本編でお楽しみください。  
よろしくお願いいたします。

**この作品はフィクションです。  
実在の人物・団体・事件とは一切関係がありません。**

**18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。**

**無断転載・複製・複写・Web上への掲載  
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)  
は禁止です。**

読者のみなさん、こんばんは～  
ヘンタイ小説家のエロバトルンです。



作品を最後まで読んでいただき  
ありがとうございました！

これからも、「凌辱」「復讐もの」「ざまあ」「敵女」  
または、「男性受け」「おねショ●」「ふたなり」  
などのジャンルを書いていきます。

よろしければ、フォローや  
高評価、お気に入り登録で  
応援していただけると  
嬉しいです。

感想レビューで、好きな  
ヒロインの名前やエロかった  
シーンを教えてください！

twitterで情報更新中です。  
こちらもフォローを  
よろしくお願いします。



🔍 エロバトルン 検索

\*ご注意CGのみAI生成を使用しています。

